

うまい!

# 岩船米づくり情報 No. 5

平成 27 年 6 月  
岩船米技術者会議  
村上農業普及指導センター  
JA にいがた岩船

**出穂期予想(6/18 現在)は平年より 3 日程度早い予想  
中干し後は間断かん水、早生の穂肥は遅れずに!**

## — 重点事項 —

- ◎ 中干し終了後は、根の健康維持のため間断かん水から徐々に飽水管理に移行する。
- ◎ 早生品種は遅れずに、適期・適量穂肥の実施により、籾数確保を図る。
- ◎ コシヒカリは、出穂 30~40 日前頃のケイ酸追肥により、体質強化を図る。

## 1 6月18日現在の生育状況【普及センター調査ほ】

【コシヒカリ】※平均は6地点の水稲作付面積に応じた加重平均

調査地点	田植日	草丈 (cm、%)			茎数(本/m <sup>2</sup> 、%)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)		
		本年	指標比	前年比	本年	指標比	前年比	本年	指標差	前年差	本年	指標差	前年差
山北/大毎	5/10	37	100	90	375	100	93	8.8	+0.8	-0.2	39.8	+1.8	+1.3
朝日/川端	5/11	40	105	98	390	105	140	9.6	+1.1	+1.2	41.1	+2.1	+3.2
村上/鑄物師	5/18	39	103	108	255	61	102	8.0	-0.5	-0.6	39.2	+2.2	+1.0
神林/牛屋	5/10	33	94	83	304	87	62	8.5	+0.3	-0.9	36.0	-0.5	-1.2
荒川/名割	5/11	30	91	108	285	114	112	7.9	-0.1	-0.5	36.1	-1.9	-1.6
関川/下関	5/ 9	30	90	95	301	107	115	8.4	+0.3	+0.7	38.5	-0.5	-2.9
平均	5/11	35	97	96	319	97	104	8.6	+0.4	0.0	38.2	+0.3	-0.1

【こしいぶき】

調査地点	田植日	草丈 (cm、%)			茎数(本/m <sup>2</sup> 、%)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)		
		本年	指標比	前年比	本年	指標比	前年比	本年	指標差	前年差	本年	指標差	前年差
神林/牛屋	5/10	30	97	79	266	83	52	8.6	+0.1	+0.9	39.7	-0.3	-0.9

【五百万石】

調査地点	田植日	草丈 (cm、%)			茎数(本/m <sup>2</sup> 、%)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)		
		本年	指標比	前年比	本年	指標比	前年比	本年	指標差	前年差	本年	指標差	前年差
村上/鑄物師	5/10	41	121	93	439	116	107	9.7	+1.2	+0.6	41.0	+3.0	-0.5

## 2 6月18日現在の出穂期予想(5/10 植え) ~「3日程度早い」~

熟期	品種名	出穂期 (予想)	穂肥時期(出穂前日数)				合計施肥量 (チツ kg/10a)
			1回目		2回目		
早生	こしいぶき	7月29日	7/6	(23)	7/15	(14)	2~3
	五百万石	7月24日	7/4	(20)	7/16	(12)	1~2
	新潟次郎	7月20日	6/25	(25)	7/5	(15)	6
中生	コシヒカリ	8月8日	7/21~7/24	(18~15)	7/29	(10)	1~3
	こがねもち	8月2日	7/15~7/18	(18~15)	7/23	(10)	1~3

※出穂期は気象条件で大きく変動するので、今後の情報に注意してください。

※ゴールデンウィーク植えの早生は、生育進度がもう少し早まっています。

※飼料用米(新潟次郎)は、6月中に1回目の穂肥を積極的に施用しましょう。

※施肥量は一般栽培のめやすであり、生育状況に応じて時期や量を調整しましょう。

### 3 中干し終了後の水管理 ～間断かん水から飽水管理へ～

○中干し終了後は浅水の間断かん水を実施し、うわ根の発生促進や根の健全化及び地耐力の維持に努めましょう。

●急激な湛水は、根の酸素不足による根腐れや下位葉の枯れ上りを生じさせるので、行わないでください。

○幼穂形成期以降は、ほ場を乾かさないうち注意しながら、飽水管理（水がなくなったらかん水を繰り返す方法）や湛水管理を行いましょ。

※中干し終了後7月上旬（出穂1ヶ月前）にかけては、夜温が上昇すると草丈が急伸長し、下位節間の伸長（＝倒伏）が心配されるので、草丈伸長を抑える節水管理（間断かん水）を行いましょ。

※低温が予想される場合は、深水管理を行って幼穂を保護しましょ。

うまい米づくりにには、健全な根が大事！



### 4 早生品種の穂肥施用のポイント ～遅れず適期に施用～

○早生品種の1回目の穂肥施用は、収量確保のため適期を逃さず確実に実施しましょ。

●生育量が極端に大きく倒伏が懸念される場合などは、遅め控えめの対応としましょ。

#### 穂肥の効果

出穂前日数	10日以内	10～15日	20～30日	30～35日
一穂粒数増加	×	◎	◎	×
登熟の良好化	◎	◎	◎	×

#### 早生品種の幼穂形成期頃（幼穂長1～2mm）の生育の目安

品種名	予想時期	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
こしいぶき	7月6日	55～60	520～540	10.5～10.8	35～37
五百万石	7月1日	60	400	11.0	38
新潟次郎	6月27日	50	570	10.5	40

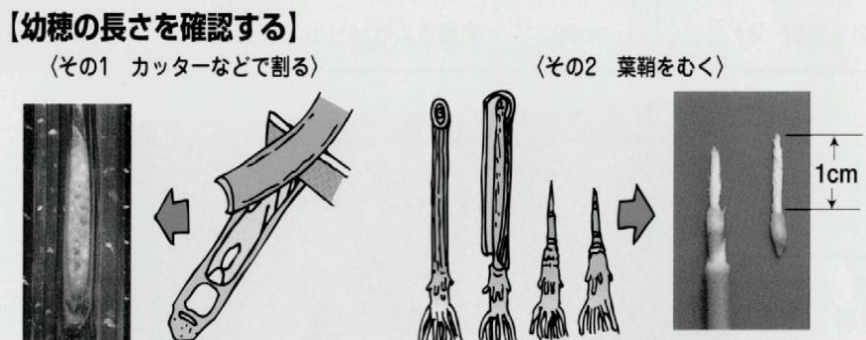
#### 幼穂長と出穂前日数の関係（コシヒカリ）

出穂前日数 (日)	幼穂長 (cm)
24	0.1
20	0.2
18	0.5～1.0
12	4.0～6.0

※ほ場内の平均的な株から最も長い茎を抜き取り測定する。

※数株から採取し総合的に判断する。

#### 幼穂長の確認方法



#### （参考）出穂前日数とイネの外観

24日前	次葉（止葉の下の葉）抽出開始
18日前	止葉抽出開始

### 5 コシヒカリのケイ酸追肥 ～穂肥の前の体質強化～

○水稲は幼穂形成期以降ケイ酸の吸収量が急激に増加します。

○出穂30～40日前に、ケイ酸肥料を追肥し、稲の体質強化と根の健全化を図りましょ。〔例〕けい酸加里プレミアム34又はマルチサポート2号：20～40kg/10a。